

令和３年度 第１回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

- １．日 時 令和３年８月２３日（月）書面開催
- ２．出席状況 委 員 １０名（川染会長、明吉委員、江頭委員、遠藤委員、小須田委員、小林委員、
小山委員、泉水委員、橋本委員、服部委員）
事務局５名（文化スポーツ部長、文化振興係４名）
- ３．傍聴人 書面開催のため傍聴人なし
- ４．議 題
 - １ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について
 - ２ 令和２年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - ３ 令和３年度文化芸術に関する市民アンケートについて
 - ４ 令和３年度文化芸術顕彰候補者（案）について
 - ５ 令和３年度文化芸術事業等の実施状況について
 - ６ その他
- ５．会議資料
 - 資料１ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について
 - 資料２－１・２ 令和２年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 資料３ 令和３年度文化芸術に関する市民アンケートについて
 - 資料４ 令和３年度文化芸術顕彰候補者（案）について
 - 資料５ 令和３年度文化芸術事業等の実施状況について

【会議要旨】

１ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について

【意見】

○委員

施策目標１について、市民が参加しやすい環境を整えることにより、幅広く市民が事業に参加しやすくなり、文芸祭一般公募展に小学生１０２名の応募があったことや展示事業を実施したことは評価できる。施策目標２は、コロナ感染防止のため事業の多くが中止となるなか、できる限り展示事業に切り替えて魅力ある事業実施に努められたことは大いに評価できる。施策目標３は、コロナ禍であっても安全に安心して美術鑑賞授業が実施できるように市民ボランティアの研修を実施されたことは大いに評価すべきである。施策目標５は、ART１００について、年に１度の冊子発行を月ごとのリーフレット発行に変更されたことは、大きな進展である。

○委員

過去の実績と比較するとどうしても低調であるという印象がある。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めが効かない現状を鑑みると、その状況下における市民や関係部署の努力が見える。今後しばらくはこのような状況が続くだろう。しかし、その中での模索を通して時代に適応した活動のあり方が見えてくるのではないかと。

○委員

コロナ感染症防止の観点から中止・延期を余儀なくされた事業も多く、その中で、出来得る事業は最大限、実施されたのではないかと考える。よって、数字による実績は参考値として扱い、今後、このような事態に陥った時に文化芸術施策をどのように展開するか、その対応策を総合的に検討する契機になったと捉えたいと思う。なお、ART１００事業において、全イベント掲載の冊子から月事り

ーフレット発行に変えたのは良いアイデアだ。

○委員

実績評価については、新型コロナウイルスの拡大により危機的状況下で、事業の中止で参加者が減少し、数値が低下したのは、やむを得ないと思う。モニタリングから、参加活動への自粛を余儀なくされたことにより、文化芸術に触れられる機会が大幅に減少していることが分かる。今後は、このような経験を踏まえ、感染対策を十分に実施した上で、幅広い担手を巻き込みつつ、ウィズコロナ時代における新しい文化芸術活動のイノベーションを図るとともに、活動の持続可能性の強化策を検討していくことが重要だと思う。

○委員

新型コロナウイルス、更に変異株の感染拡大防止のため、様々な施設を休館したり時間短縮したりせざるを得なかった。その結果、企画事業の中止を余儀なくされた。コロナは未だ収束に程遠く、緊急事態が継続している。予測不可能な状態の中で感染予防に努め、可能な限り実行したことは評価すべきであろう。しかし、コロナ禍は5年くらい続く、という説もあるようである。そのような状況で、いくつかの特徴を見出す事ができる。施策目標2-9「フィルムコミッション事業の実施」が前年度28件から49件に増えている。コロナ禍でも実施の可能性があろう。実施目標3-7「やまとげんきっこアートフェスティバルの開催」は、参加園数は増えている。感染防止策を徹底すべきであろうが、展示会は開催できそうである。ただし、子どもに関しては教育委員会の意向を踏まえて実践すべきであろう。御父母の考えも無視できない（パラの学校観戦の例）。人と人との関わりは大事であるが、対話による美術鑑賞授業や多文化共生の実施については、ソーシャルディスタンスを考察すべきであるので今のところ難しい。施策目標5-4「大和文化百花」へのアクセスは倍増している。まずここに力を入れるべきであろう。

○委員

施策目標6に関連して、東京2020大会の開会式を見て日本のおもてなしは素晴らしい。パラリンピック開会式の統一された内容とデコレーショントラックに伊藤若冲の絵等、新しい文化の発信の仕方に驚いた。今回の東京2020大会、コロナ禍で緊急事態宣言中ではあるが、今後の多文化共生の醸成を含めて関心を持ったので、いつかアンケートをとるとよいと思った。

【質問】

○委員

施策目標4のYAMATOイラストレーターデザインコンペ中止にあたって、4つ疑問点がある。1つ目は、応募作品595点の扱いについて、なぜ応募された作品を展示しなかったのか。2つ目は、なぜ、中止を事前に出品者に連絡できなかったのか。3つ目は、作品の返却法をどのようにしたのか。その費用は誰が負担するのか。4つ目は、全国から多数の応募があり、出品数は前年度比114%増となっているが、大和市民の作品応募内容を知りたい。

△事務局

1つ目は、令和2年10月～12月に作品募集、令和3年1月に審査会を実施し、2月上旬の展示会に向けた準備を進めておりましたが、1月7日に緊急事態宣言が発出されたため、やむを得ず展示会は中止といたしました。代替策として、初めてYouTubeやホームページで、全入選作品の公開を行いました。2つ目の展示会中止については、審査結果と併せて事前に応募者に通知文を送りました。3つ目の作品の返却は、例年どおり希望する方に郵送により自己負担で返却しています。4つ目の大和市民からの応募は174人で、特に柏木学園の生徒から多くの応募を頂きました。

○委員

コロナ禍で事業実績の数値が低下しているのは致し方ないと思う。評価・課題の欄に「コロナ禍における新たな事業手法」（施策目標1）「魅力ある事業の実施」（施策目標2）「教育委員会と検討」（施

策目標３）「コロナ禍におけるイベント開催手段」（施策目標５）とあるが、具体的に令和３年度は取り組んでいくのか。

△事務局

「コロナ禍における新たな事業手法」（施策目標１）と「コロナ禍におけるイベント開催手段」（施策目標５）については、芸術文化ホールのライブ配信ができる環境整備を指定管理者と進めています。また、「魅力ある事業の実施」（施策目標２）については、歴史資料館にて行っているミニ講座をコロナ対策のため、展示に切り替えるなど、より多くの方が歴史や文化に触れられる方策を検討しています。「教育委員会と検討」（施策目標３）については、対話による美術鑑賞授業を含め、学校における文化芸術関連事業の実施を前提にコロナ対策等を教育委員会と検討しているところです。

○委員

コロナ禍、多くの事業が開催中止となったことは残念であるが、安全確保上仕方ない部分もあると思う。一方で、事業の内容によってはスカイプやズーム、YouTube などオンラインツールを活用することで実施できたであろうものも多数あるように見受けられる。リアルで開催するに越したことはないが、現在の厳しい状況の中でもオンライン開催することにより、平常時においてもリアル開催と併せてオンライン活用を図るなど、より多くの方に参加していただけるよう参加手法を広げていくことができるようになるのではないかな。

△事務局

コロナ禍においては、多くの方が参加できる手法について、今後も引き続き、検討が必要であると感じています。現在ではオンライン開催が一般的になり、市の事業としても柔軟な対応を考えていますが、オンライン開催については、機材の準備や通信環境整備などが課題となっています。また、インターネット環境がない方へのイベントの周知や、参加できるような仕組みづくりなど、市民へのアプローチも課題と考えています。

○委員

コロナ禍にあつて一般公募展の短歌・俳句・川柳の出品点数が伸びたことが目を引いた。それでも展示は中止されたようだが、一般公募展の書・絵画・写真の展示が開催されたこととの違いにはどのような理由があったのか。

△事務局

短歌・俳句・川柳の一般公募展につきましては、令和３年１月に作品募集、２月に審査会を実施し、３月の展示会に向けた準備を進めていましたが、展示期間に緊急事態宣言が発令されたため、中止としました。書・絵画・写真の一般公募展については、緊急事態宣言が発令されていない期間であったため予定通り、令和２年８月に作品募集、１０月に審査会・展示会を感染症対策を徹底したうえで実施いたしました。

２ 令和２年度やまと芸術文化ホールの運営状況について

【意見】

○委員

２－１ ギャラリーの稼働率が他の施設に比べ数値が低い。コロナ禍とはいえ、もっと有効利用への充実をはかる方策が望ましい。

△事務局

ギャラリーの利用については、展示などの連続利用が基本となることから、他施設よりも低い稼働率となっています。今後、ギャラリーの稼働率の向上に向けて単発的な利用がしやすいルールづくりなどを、指定管理者と調整していきます。

○委員

コロナ禍のため、芸術文化ホールの運営状況が前年度と比較すると低下したのは当然の結果だと思う。そのような中で、スタインウェイピアノを体験する企画や学生のための演奏を事前に録画して本番で活用するなど、工夫した取り組みがあり良かった。

○委員

予定されていた公演やイベントのうち、多くのものが中止に追い込まれたのは残念でならない。原因としては幾つか考えられるが、1つは政府の方針が定まらないことだ。昨今の状況を見ると、昨年来何度も発出されている緊急事態宣言等で最も損害を被っているのは文化芸術と飲食業のように思う。背後に強力な支持母体を持たないこれらの業界に、敢えて我慢を強いてきたように思われてならない。そこでそれを逆手に取り、逆により強力かつ効率的な感染対策を政府に先んじて構築し、全国に発信して全国の文化施設と情報共有し、積極的に公演やイベントを開催してはどうか。会場運営者も公演主催者も政府に付度する必要はないと思う。このような時代だからこそ文化芸術が求められるのではないかな。

○委員

コロナ感染拡大が収束した暁には数値は自ずと上がるものと期待する。

○委員

新型コロナウイルスの感染拡大により、運営状況は、貸館利用者前年度比較80%減、稼働率は、32%減少している。文化芸術事業の実施状況でも、メインホール事業では、オフブロードウェイミュージカル、松竹大歌舞伎、ベルリン・フィルハーモニー管弦五重奏、東京フィルハーモニー交響楽団などが中止となり、芸術性の高い文化芸術作品や舞台芸術を鑑賞する機会が減少した。他の文化芸術事業の来場者も激減している。危機的で、災害的状況なので、やむを得ないと思う。

○委員

コロナ禍の中でそれぞれの時宜に応じて、考えながら実施されてきたことがわかる。感染防止策を徹底した結果であろう。式典は開催できなかったのは致し方ない。展示会を行えたのは良かった。メインホールをみると、10月や3月の公演が行われれば、観客数が多いことはポジティブな意味を持っていると思う。

○委員

コロナ禍でも ILDEVU コンサートやスタインウェイ体験等は素晴らしい企画だ。このような体験ができる企画を増やし継続して頂きたい。私事だが、都内にミュージカルを2回見に行った、感染症対策が徹底されていたが、満席だったため、ソーシャルディスタンスが取れていなかった。

【質問】

○委員

多くの公演が中止となり、指定管理者による運営にも大きな影響が出ているのではないかと危惧するが、収支決算など経営状況を示す資料がない。審議対象外ということか。健全で持続的な運営を進めていくためには、魅力ある公演などの実施と相まって安定的な経営を行っていくことが必要となるのではないかな。

△事務局

指定管理者の安定的な施設運営には、安定した財源の確保が不可欠です。昨年度は休館により、指定管理者が一切収入を得られない期間があったことから、その期間に限り、収入減額の一部を市が指定管理者に支援しました。

○委員

利用率が軒並み低下するのは、健康と安全を優先した結果であるので致し方ないと思う。それでも下半期にマルチスペースの稼働率が上がる理由をうかがいたい。

△事務局

マルチスペースは、ダンスやミニコンサートのほか、会議室としても利用できる利便性が高い施設のため、平時から利用率が高い施設です。令和2年7月にマルチスペースの利用が再開し、9月までは、感染リスクを考慮し、利用人数制限を収容人数の15%（15人/100人）かつ、会議利用に限定するなどを他の施設に比べ厳しい制限としていました。10月以降は感染が落ち着いたこともあり、収容人数のを40%に緩和し、用途の制限を解除したことから、下半期の利用が向上したものと考えています。

3 令和3年度文化芸術に関する市民アンケートについて

【意見】

○委員

アンケート調査項目が幅広く理解しやすく取り組み方が良いと思う。気づいた点として、1つ目は、慈緑庵・資料館の案内PRが不足している。2つ目は、市文化芸術情報のPRの拡充が必要と考える。3つ目は、シリウス開催事業情報のPR強化を再考する必要がある。

○委員

市民アンケートの全体の回答率はわかるが、年代別の回答率を知りたいと思う。回答率によってその世代の文化芸術への関心や興味が読み取れるのではないかと思う。

○委員

10代に認知度の高い事業の高い理由を分析して、水平展開することにより他の事業への誘導ができるのではないか。

○委員

新型コロナウイルス感染症拡大で、国民に外出の自粛が叫ばれている中で、アンケートでは文化芸術に触れる機会が約7割減少しているのは、やむを得ないと思う。半面、感動は半減するが、自宅でネット配信などの情報システムを活用し、文化芸術を鑑賞した市民も多いと思う。

○委員

回答件数が増えたこと、「市全体の年齢構成に近い意見聴取ができたこと」は良かった。予想通りではあるが、コロナ禍で、「文化芸術に触れる機会が減った」と自覚している市民が多いことは、我々に次の活動を期待されていると見ることができる。豊かな生活、子どもたちの豊かな感性と人間性のために「芸術文化」が必要であると思っている市民が多い事は特筆して良いと思う。他方「大和文化百花」の認知度を上げていく必要がある。情報発信はコロナ禍ゆえに新たな課題である。

○委員

前回より回答者の平均年齢が下がった事は素晴らしい。「大和文化百花」での情報発信して頂き、今はコロナ禍でもスマホのYouTube等で、どこにいても、文化に接する事ができるようになり、人はそれぞれに合った文化に接して大変な中であるが、心を癒しているのではないか。

【質問】

○委員

2ページ（男女比）の10代男性の割合の少なさが目立つが、どう解釈をすべきか。また、この差の対策などの検討はあるか。

△事務局

文化芸術の分野は総じて女性の方が積極的な傾向にあります。特に若い世代にその傾向が顕著となっています。子どもの頃から文化芸術に触れる機会を増やすことが大切だと考えています。

○委員

コロナ禍により社会の有り様が変化しているにも関わらず、設問内容や問いかけ方にはほとんど変化がない。市民のライフスタイルやニーズの変化により、どのような施策が新たに求められているの

かを炙り出すような設問を設けるのはどうか。

△事務局

市民アンケート調査では、文化芸術基本計画に定めているモニタリング項目を経年で測るため、設問につきましては前回調査時とほぼ同様となっています。今回の調査では、現在の社会状況を踏まえ、新たに「Q 7 新型コロナウイルスの影響による文化芸術に触れる機会の変化」の設問を追加しました。これにより、コロナ禍における今後の文化芸術施策のヒントが得られたと思います。

○委員

大変興味深い集計結果だという印象を持った。私は統計の専門家ではないので的外れな意見かも知れないが、まず抽出数が2,000人ということだが、例えば10,000人程度に引き上げることは可能か。大和市の人口が約24万人とすると、理想的にはその1割程度を抽出すればより信頼性の高い結果が得られるのではないか。しかしながら、それは経費的、物理的に現実的ではない。そこで10,000人という数字を挙げてみた。それでもまだ大きな数字なのかもしれない。また、年代別抽出者数は大和市の年代別人口分布と比例する割合で抽出したのか。さらに若年層の回答が少ないように思う。若い人たちに文化芸術活動に関心を持って欲しいものだ。Q 13の自由意見は興味深い。

△事務局

今回のアンケートは、住民基本台帳に基づき、年代別人口に比例して抽出をしております。なお、本アンケートは、400人程度の回答があれば、ある程度有用な結果が得られると見込んでおり、回答率を勘案し、2,000人を抽出し、実施しています。

○委員

コロナの影響を尋ねたQ 7において10代と80代でわずかですが文化芸術に触れる機会がむしろ増えたというのはどのような場合なのか。そこにコロナ禍への対応策のヒントはないか。

△事務局

「どちらかといえば文化芸術に触れる機会が増えた」という回答につきましては、オンラインによる芸術鑑賞が増加した要因と考えます。直接、鑑賞施設に行けない状況でも、文化芸術に触れられる機会を検討していきたいと思います。

4 令和3年度文化芸術顕彰候補者（案）について

— 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —

○各候補者、推薦内容と同意見で受賞にふさわしいとの意見が集約された。

【質問】

○委員

候補者選考の折、在野（例えば、自治会やサークル活動など）の候補等はどうなっているか。

△事務局

幅広い分野から選考するため、市が新聞やインターネット等で日頃より情報収集するほか、毎年、文化芸術団体等に候補者の推薦を依頼しています。

5 令和3年度文化芸術事業等の実施状況について

【意見】

○委員

ホール稼働率を見る限り、昨年と比較するとかなり一昨年の状況に近づいてきているように思う。文化事業を継続させていくための市当局のご苦勞が偲ばれる。新型コロナウイルス騒動は恐らく来年いっぱい、まだまだ続き、波はあるものの終息に至ることはないと思われる。感染対策を進化させることと、コロナについての正しい防御法を市が率先して市民に啓蒙することの二本立てで文化事業

を継続させてはどうか。併せてIT技術を使った新たな文化事業の立ち上げも期待できる。ワクチン接種も進んでいるようだ。市民の皆様がマスクなしで文化事業に参加できる日を、心待ちにしている。

○委員

ほかの議題すべてに共通するが皆さんの安全安心が保証できないコロナ感染拡大の現状においては、事業の中止・延期などの対応は順当な判断であるとする。

○委員

新型コロナウイルスの終息が不透明の中で、市民の安全・安心を第1に考え、臨機応変な対応をお願いしたい。

○委員

文化事業は、コロナ禍、特に変異株の感染状況によって変わらざるを得ないと思う。特に子ども関係の企画は、教育委員会、父母の考え方を無視できない。

○委員

主な事業、少しでも実施できると良い。個人的にはART100が好きで身近に文化を体験・鑑賞できて楽しかった。様々なジャンルの活動家ともお話ができ、勉強になった。多くの団体の再開が楽しみである。

【質問】

○委員

実施予定や調整中とあるが、7月下旬からコロナ感染の急激な拡大が続いている中で再考することもあるか。

△事務局

現在は、開催する方向で準備を進めておりますが、コロナの感染状況や国や県の方針等により再考する場合があります。

6 その他

○委員

コロナ禍での様々な制限により施設の運営は今後も厳しい状況が続くと思うが、利用する市民の協力があることを忘れてはならないと思う。また、新型コロナウイルス感染が長引く中、1年を超える長期間にわたり、現状を支える医療従事者への感謝の気持ちは持ち続けていたい。